

男子学生と女子学生のカフェの利用状況と 好まれるインテリア空間デザイン

青柳 由佳・小出 あつみ・松本 貴志子

The Differences in the Use and the Interior Design of the Cafe Preferred by Male and Female Students

Yuka AOYAGI, Atsumi KOIDE and Kishiko MATSUMOTO

背景と目的

日本にコーヒーが伝来したのは1700年前後といわれ、一般の人が目にするようになるのは1853年のペリー来航以降となる。また日本最初のカフェは1888(明治21)年東京の下谷区西黒門町(現在の台東区上野)に開店した「可否茶館」といわれ、経営者はコーヒーを飲みながら知識を吸収し文化交流をする場と位置付け、ビリヤードや将棋、国内外の新聞、雑誌をカフェに揃えた。その後1911年に開業し現存する「カフェ・パウリスタ」は、文化人だけでなく一般人も多く訪れ、大正期に入ると各地に店舗を広げ日本最初のチェーン店となった。太平洋戦争によりコーヒーの輸入が一時中止されるが、戦後は経済成長と生活の洋風化と共に個人経営の店が各地につくられた。その後1970年代にコーヒー専門店が展開し、1980年代にはセルフカフェが主流となり、2000年以降現在に続くカフェブームとなる¹⁾。このようなカフェブームは1990年代に海外から進出したカフェチェーン店の影響も大きいと考えられ、その要因として女性に支持されたこと、味と接客と雰囲気을挙げて¹⁾。

カフェにおける雰囲気にはインテリアデザインが大きく関係していると考えられ、今後のカフェに求められるインテリア空間、多様化する利用者ニーズについて、顧客アンケートを通して報告され、その考察が行われている²⁾。また筆者(青柳)は茨城県つくば市北条における大学での授業を通し、まちづくりの情報発信の拠点として町屋を改修してその一角にカフェを併設した取り組みを報告した³⁾。このカフェは学生が住民に対して計画の提案を行い、さらに数年に渡って学生が土日に関りカフェを運営するものであった。このようにカフェは、学生の意識の中においても身近な存在になっていると同時にまちづくりや町屋の再生等、日本が近年抱える社会問題を解決する一手段として取り入れられることが多くなっている。

以上の背景より学生のカフェに対する意識を捉えると共にその男女差の有無について考察したいと考えた。筆者らは、男子学生と女子学生のカフェの利用状況と好みについてアンケート調査を行い、男女学生を比較して検討した。本研究は、利用状況と好まれるインテリア空間デザインについてのアンケート結果を報告し、男女間の差異について考察することを目的とする。

方 法

1. 調査対象者と調査方法

(1) 調査対象者

調査対象の男子学生は愛知県内に在る12の大学に通う学生で、運動サークルに入っていた学生たちであった。女子学生は名古屋市内にあるN女子大学家政学部の1年生から4年生で、食物学系の講義、実習および実験の授業を履修する学生であった。学生には、初めに質問紙に記載した研究目的を口頭で説明した後、アンケートは無記名で行い、回答結果は記号で処理するので、プライバシーおよび個々の内容を特定しない事と、得られたデータを研究以外の目的で使用しない事を説明した。さらに、データの管理方法と研究終了時にはアンケート用紙を溶解して消去することを説明した。その後、研究参加への同意が得られた学生に質問紙を配布して質問内容を説明後、学生が自記式で記入した。男子学生は留め置き法で配布から約1か月後に回収し、女子学生は記入後、その場で回収した。質問紙の配布数は、男子学生160枚に対して有効回答数が143枚（有効回答率は89.4%）であった。女子学生は配布数146枚に対して有効回答数が140枚（有効回答率は95.9%）であった。対象学生の平均年齢は男子が 20.7 ± 1.4 歳、女子が 19.4 ± 1.0 歳であった。以後、男子学生を男子、女子学生を女子と略記する。

(2) 質問紙の内容

質問紙の内容は4項目に大別し、1. カフェの利用状況に関する8問、2. カフェの料理に関する5問と飲み物に関する5問、3. 食器に関する4問、4. インテリア空間デザインに関する9問であった。本研究では1. カフェの利用状況に関する8問及び4. インテリア空間デザインに関する9問について検討した。詳細な質問および回答内容は表1、表2と図1、図2に示した。

(3) データの処理方法

得られたデータはエクセルで集計し、 χ^2 ($m \times n$ 分割表) 検定を行い、統計的有意水準を5%で示した。

結果および考察

1. 利用状況について

利用状況に関する質問結果を表1と図1に示した。

主に誰とカフェを利用するかについては、男女学生共に友達が多くを占めた。また男女間において有意差が認められ ($p < 0.05$)、女子は全体の80%が友達と利用しており、男子は友達の他に1人や恋人と利用する人数が女子より多く見られた。

次に、何人で利用することが多いかの回答については、男女学生共に2人が多くを占めた。また男女間において有意差が認められ ($p < 0.05$)、2人で利用する場合が女子は全体の72%を占めた。男子は全体の50%が2人で利用する他、1人での利用が14%、3人での利用が20%、

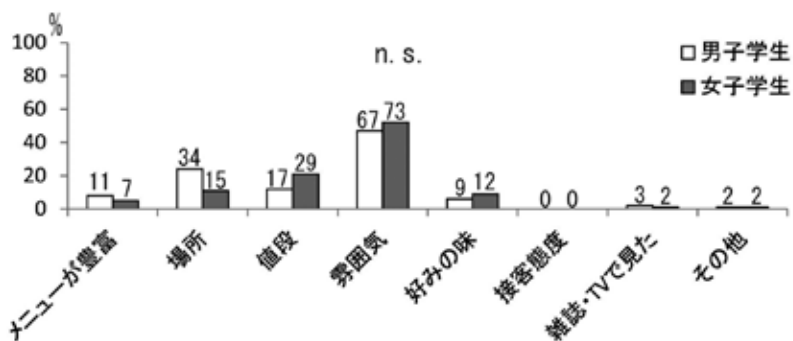
表1 カフェの利用状況

質問	回答	男子学生		女子学生		χ ² 検定
		人	(%)	人	(%)	
誰と利用するか	1人	20	(14)	11	(8)	
	友達	92	(64)	112	(80)	
	家族	4	(3)	9	(6)	*
	恋人	24	(17)	8	(6)	
	その他	3	(2)	0	(0)	
何人で利用するか	1人	20	(14)	9	(6)	
	2人	72	(50)	100	(72)	
	3人	28	(20)	13	(9)	*
	4人	16	(11)	14	(10)	
	5人以上	7	(5)	4	(3)	
よく利用する時間帯	開店～10時まで	6	(4)	1	(1)	
	10時～14時まで	29	(20)	28	(20)	
	14時～18時まで	67	(48)	86	(61)	*
	18時～21時まで	32	(22)	21	(15)	
	21時以降	9	(6)	4	(3)	
平均的滞在時間	30分未満	8	(6)	4	(3)	
	30分～1時間未満	48	(34)	28	(20)	
	1～2時間未満	65	(44)	80	(57)	*
	2～3時間未満	17	(12)	18	(13)	
	3時間以上	5	(4)	10	(7)	
利用目的	食事	15	(11)	13	(9)	
	お茶を飲む	21	(15)	19	(14)	
	友達とのおしゃべり	55	(38)	93	(66)	
	暇つぶし	32	(22)	9	(6)	*
	勉強	5	(4)	5	(4)	
	デート	12	(8)	1	(1)	
	その他	3	(2)	0	(0)	
利用頻度	毎日	0	(0)	0	(0)	
	週4～6回	1	(1)	1	(1)	
	週1～3回	12	(8)	22	(16)	
	月2.3回	38	(27)	61	(43)	*
	月1回	39	(27)	34	(24)	
	2.3ヶ月に1回	29	(20)	10	(7)	
ほとんど利用しない	24	(17)	12	(9)		
1人あたりの使用平均金額	499円以下	15	(11)	12	(9)	
	500円～999円	83	(57)	90	(64)	
	1,000円～1,499円	38	(27)	30	(21)	n.s.
	1,500円～1,999円	4	(3)	7	(5)	
	2,000円以上	3	(2)	1	(1)	
店を選ぶ基準	メニューが豊富	11	(8)	7	(5)	
	場所	34	(24)	15	(11)	
	値段	17	(12)	29	(21)	
	雰囲気	67	(47)	73	(52)	n.s.
	好みの味	9	(6)	12	(9)	
	接客態度	0	(0)	0	(0)	
	雑誌・TVでみた	3	(2)	2	(1)	
	その他	2	(1)	2	(1)	

(*: p<0.05, n.s.: 非有意)

調査対象者は男子学生が143人で女子学生が140人である。

検定はχ² (m×n分割表) による。



(グラフ中の数字は実数 (人) である) (n.s.: 非有意)

調査対象者は男子学生 143 人で女子学生 140 人である。
検定はχ² (m×n分割表) による。

図1 店を選ぶ基準

4人での利用が11%と多様な利用が見られた。

主に利用する時間帯に対しての回答では、男女学生共に14時から18時の回答が多くを占めた。また男女間において有意差が認められ ($p < 0.05$)、女子は14時から18時の利用が全体の61%を占めているのに対して、男子は14時から18時が全体の48%の他に開店から10時までが4%、10時から14時が20%、18時から21時が22%、21時すぎが6%と様々な時間帯の利用が見られた。

滞在時間に対する回答では、1～2時間未満が男女学生共に多くを占めた。また男女間において有意差が認められ ($p < 0.05$)、男子は1時間未満が全体の40%、2時間以上が16%、女子は1時間未満が全体の23%、2時間以上が20%であり、男子は比較的短い滞在時間でありそれに対して女子は比較的長い滞在時間であることが示された。

利用目的に関しては、男女共にお友達とおしゃべりが多くを占めた。また男女間において有意差が認められ ($p < 0.05$)、男子は暇つぶしが全体の22%を占めるのに対して女子は6%と僅かであり、また男子はデートが8%であるのに対して女子は1%であった。先述した誰と利用するかの回答で男子は1人での利用が14%あり、暇をつぶすための理由との相関も見られた。

利用頻度における回答では、男女共に月2、3回の回答が多くを占め次に月1回が続いた。また男女間において有意差が認められ ($p < 0.05$)、週に1～3回では男子が全体の8%に対して女子は全体の16%、2、3か月に1回が男子は20%に対して女子は7%、ほとんど利用しないは男子が17%に対して女子が9%であり、女子の方が男子よりも利用頻度が高い傾向が見られた。

1人当たりの使用平均金額の回答では、男女間において有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に500～1000円が多くを占める傾向が示唆され、男子は57%、女子は64%であった。

最後に店を選ぶ基準についての回答では、男女間において有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に雰囲気が多くを占める傾向が示唆され、男子は全体の47%、女子は全体の52%であった。続いて男子は場所を重視 (24%) し、女子は値段 (21%) を重視する傾向が見られた。近年海外から進出したカフェチェーン店が好まれる理由として高井¹⁾が示した「味と接客と雰囲気」のうち雰囲気について裏付ける結果が示された。

以上の結果から男女学生のカフェの利用状況は、主に友達と2人で利用し、利用する時間帯は14時から18時まで、平均利用滞在時間は1時間から2時間未満で、利用目的は友達とおしゃべり、利用頻度は月2、3回が多くを占めていた。男女差が見られる点は、男子は1人で暇つぶしに利用するなど女子に比べ多様な利用が見られること、よって利用時間も18時から21時の利用や開店から10時までの利用などばらつきがあり、滞在時間も30分から1時間未満という比較的短い時間の利用が多いと考えられた。一方、女子は友人と2人でおしゃべりをするためにカフェを利用する人が多数を占めており、平均的な利用であると考えられた。

2. 好まれるインテリア空間デザインについて

好まれるインテリア空間デザインについての回答結果を表2、図2に示した。

光の明るさの好みについては、男女間に有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に暗い空間より明るい空間を好む傾向が示唆された。自然光、照明等光の好みに対する回答でも男女間に有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に自然光、照明を同程度好み、僅かであるが照明より自然光を好む傾向が示唆された。光の色についての回答では男女間に有意差が認められ ($p < 0.05$)、男子は全体の46%が白色を好み、女子は全体の52%がオレンジ色を好み、異なる傾向が見られた。一般に白は昼白色と呼ばれる日中の光の色で、照度を必要とする作業

表2 好まれるインテリア空間デザイン

質問	回答	男子学生		女子学生		χ^2 検定
		人	(%)	人	(%)	
光の明るさ	暗い	59	(41)	45	(32)	n.s.
	明るい	84	(59)	95	(68)	
光の種類	自然光	79	(55)	73	(52)	n.s.
	照明	60	(42)	67	(48)	
	その他	4	(3)	0	(0)	
光の色	白	65	(46)	53	(38)	*
	黄色	20	(14)	11	(8)	
	オレンジ	52	(36)	73	(52)	
	その他	6	(4)	3	(2)	
イス	背もたれ有	77	(54)	63	(45)	n.s.
	背もたれ無	1	(1)	0	(0)	
	ソファ	56	(39)	68	(48)	
	掘りごたつ	5	(3)	5	(4)	
	座椅子	0	(0)	0	(0)	
	カウンターチェア	4	(3)	4	(3)	
	その他	0	(0)	0	(0)	
机	四角 高	57	(40)	78	(55)	*
	四角 低	35	(24)	33	(24)	
	円 高	22	(15)	18	(13)	
	円 低	21	(15)	10	(7)	
	カウンター	7	(5)	1	(1)	
	その他	1	(1)	0	(0)	
素材	木	118	(82)	127	(91)	n.s.
	金属	7	(5)	3	(2)	
	プラスチック	14	(10)	7	(5)	
	布	3	(2)	3	(2)	
	その他	1	(1)	0	(0)	
インテリアスタイル	カジュアル	10	(7)	14	(10)	*
	エレガント	7	(5)	5	(4)	
	クラシック	13	(9)	4	(3)	
	ナチュラル	18	(13)	27	(19)	
	カントリー	20	(14)	35	(25)	
	モダン	30	(21)	7	(5)	
	アジアリゾート	12	(8)	16	(11)	
	和モダン	25	(18)	21	(15)	
エスニック	6	(4)	11	(8)		
その他	2	(1)	0	(0)		
空間	個室空間	76	(53)	89	(64)	n.s.
	共同空間	67	(47)	51	(36)	
あってほしいもの(複数回答可)	観葉植物	72	(50)	76	(54)	*
	花	24	(17)	54	(39)	
	座	31	(22)	30	(21)	
	アンティークな置物	55	(39)	61	(44)	
	併設店舗	10	(7)	6	(4)	
	動物	9	(6)	9	(6)	
	雑誌や本	57	(40)	56	(40)	
	ひざ掛け	5	(4)	26	(19)	
その他	4	(3)	1	(1)		

(*: $p < 0.05$, n.s.: 非有意)

スペースに向くため活動に適した光であり、オレンジは電球色と呼ばれる光の色で照度の低い憩いの場に適する安らぎの光であり、学生における男女間の好みの差が見られる結果であった。また男女共に黄色を好む人は少なかった。小林ら⁴⁾は男女学生を対象にカフェの光色が心理に与える影響について実験し「居心地について男女共に白色に評価が高い。また男性は赤色光に相対的に評価が低く、女性は緑色で評価が低い」と示している。本研究では赤色ではなくオレンジ色でアンケートを行った点や小林らの実験では強い光を用いたという点に違いはあるが、男子が赤色の光に評価が低い傾向については類似した結果が示された。さらに小林ら⁵⁾は「お茶を飲みながら長時間会話をする環境条件による差は男性ではほとんど見られないが、女性は暗静な条件で評価が高い」と示している。これは本研究で女子がオレンジ色の光を好み、オレンジ色の光は照度が低い場に適することとの相関が示唆された。

次にインテリアのイスの好みについての回答では、男女間に有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に、背もたれ有のイスやソファを好む人が多数を占める傾向が見られ、背もたれ有のイスについては、男子は全体の54%、女子は全体の45%、ソファについては男子

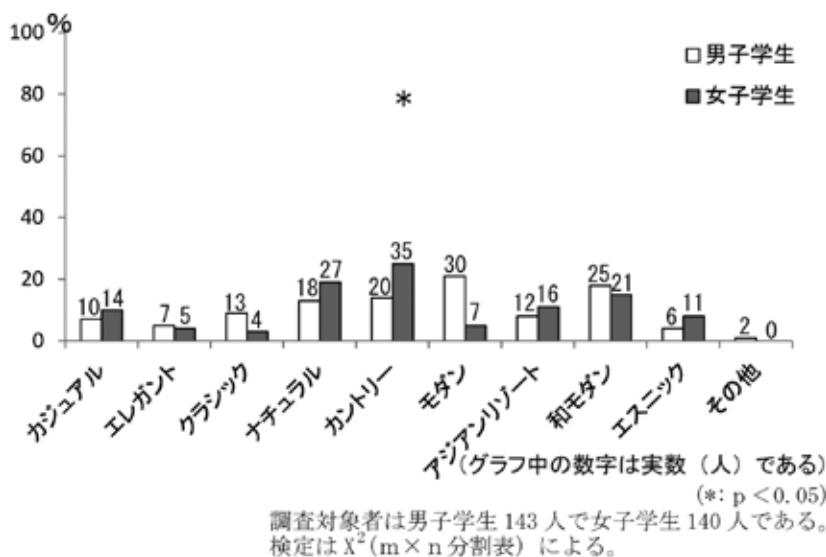


図2 好まれるインテリアスタイル

が39%、女子が48%であった。男女共にカフェにおいて体を休めくつろぎたいという要求の表れとも考えられた。

インテリアの机の好みについての回答では、男女間において有意差が認められた ($p < 0.05$)。男女学生共に四角で高い机を好み、その値は男子が全体の40%に対して女子は全体の55%であり、男子より女子の方が四角で高い机を好む傾向が見られた。また円で低い机やカウンターについては、女子より男子が好む傾向が見られた。

インテリアの素材の好みについては、男女間に有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に木を好む割合が高い傾向が示唆され、男子が82%、女子が91%であった。僅かであるが、金属、プラスチックにおいて女子よりも男子が好む傾向が見られた。小林ら⁶⁾が20代の大学生にインテリアの好みについて調査し「床について、落ち着いた印象のカフェは木の素材が最も比率が高い」と示している。本研究では床、壁、天井等の部位ごとの素材を調査したものではないが、男女共に木の素材を好むことからカフェに落ち着きを求めていることが示唆された。

調査項目のインテリアスタイルについては代表的な9種類の事例をカラー写真で示して、好まれるスタイルについて質問をした。本稿ではスタイルの説明を文章によって以下に示す⁷⁾⁸⁾。

- ①カジュアル：フォーマルなクラシックスタイルに対するインフォーマルなスタイルである。
- ②エレガント：18世紀のロココ調や19世紀のアールヌーボーにデザインのルーツがある。ドレープカーテンやアンティーク家具などを用い、女性的な優しいスタイルである⁸⁾。
- ③クラシック：バロックやゴシック時代の建築にデザインのルーツがある。シャンデリアや暖炉等が置かれた重厚なスタイルである⁸⁾。
- ④ナチュラル：自然な素材感のある材料を用いたスタイルである。安らぎ感のあるイメージを求める場合に適し、色彩は自然素材の色調を生かすため色味の強い色を避ける⁷⁾。
- ⑤カントリー：田舎暮らしをイメージさせるスタイルであり、色彩は素材色を活かしながらペイントも使われる。木の温かみを残しながら手作り感を加えた素朴なスタイルである⁷⁾。

- ⑥モダン：モダンとは近代を意味し、20世紀以降の装飾を排除した機能性と合理性を持つデザインで、直線で構成され金属やガラスが多用される。色彩は無彩色が多い⁷⁾。
- ⑦アジアリゾート：アジア各地のデザインを加えたスタイルで、主にバリ島などのリゾートがイメージされるが、中国や韓国風のスタイルも入る。色彩は地域特有の藤や竹などの素材が加わるため色味の強い色は避けるが、木部はダーク色が一般的である⁷⁾。
- ⑧和モダン：シンプルなモダンスタイルに和のエッセンスを加えたスタイルである。色彩は素材色が中心である⁷⁾。
- ⑨エスニック：各地の民族性を加えたスタイルであり、主にその土地のファブリック等が用いられる場合が多い。

インテリアスタイルについては男女間に有意差が認められた ($p < 0.05$)。男子は全体の22%がモダンスタイルを好んだ。一方、女子はモダンスタイルを好む人が5%に留まった。また女子は全体の25%がカントリースタイルを好んだ。一方、男子はカントリースタイルを好む人が14%程度であった。またクラシックスタイルを好む人は男子が9%に対して女子は3%であり、女子よりも男子が好む傾向が見られた。エスニックスタイルを好む人は男子が4%に対して女子は8%であり、男子よりも女子が好む傾向が見られた。男子が多く好んだモダンスタイルは装飾を排除した合理的なスタイルで、女子が多く好んだカントリースタイルは温かみのある素朴なスタイルであり、男女差が見られた。

個空間と共同空間についての好みでは、男女間に有意差は認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に個空間をより好む傾向が示唆された。

カフェにあってほしいものの質問については複数回答可で回答を求めた。男女間の有意差が認められなかった ($p > 0.05$) が、男女共に観葉植物が多くを占める傾向が示唆され、次いでアンティークな置物、雑誌や本であった。しかしひざ掛け、花については男子よりも女子が多く望む傾向が見られた。

以上の結果より、男女共に明るい自然光や照明を好み、イスは背もたれのあるものやソファを好み、机は四角く高いものを好み、インテリアの素材は木を好み、共同空間より個空間を好む傾向が示唆された。男女差が見られた点は、光の色について男子が白を好み女子がオレンジを好む点、机について女子に比べ男子は丸い低い机やカウンター等多様な机を好む点、インテリアスタイルについて男子がモダンスタイルを好み女子がカントリースタイルを好む点であった。男子は活動に適した白い光がある合理的なモダンスタイルを好み、一方女子は安らぎを感じるオレンジ色の光がある温かみのあるカントリースタイルを好むという男女差が見られた。その要因として、男子は友達とのおしゃべり以外に暇つぶし等の多様な利用が見られ、店を選ぶ基準として雰囲気につき場所を挙げている人の割合もある程度あり、カフェのインテリア空間に対して居心地以外に日常の活動の一部としての合理性を求めているものと考えられた。一方女子の利用は友達とのおしゃべりという目的が多く、店を選ぶ基準には雰囲気が多くを占め、カフェのインテリア空間に対して居心地と安らぎを求めているものと推察された。内田ら⁹⁾の神戸市における現代カフェの利用客へのアンケート調査において「来店理由として居心地が良くリラックスできること、日常生活の疲れを癒すため」が8割と多くを占め、本研究と類似した結果が示されており、このような心理的な要素が好まれるインテリア空間デザインに影響を与えていることが示唆された。また本研究において男子は多様な利用が見られるために、インテリア空間に居心地だけでなく合理性を求める場面や需要があると考えられた。

要 約

カフェにおける利用状況とインテリア空間デザインについてアンケート調査を行い、男子学生（以後男子）と女子学生（以後女子）を比較して考察した。

カフェの利用状況は、男女共に友達と2人での利用、目的は友達とおしゃべりが多数を占めた。男女差が見られた点は、男子は1人で暇をつぶすためなど多様な利用が見られ、男子は女子より短い滞在時間の傾向が見られ、利用頻度は女子より低い傾向が見られた。好まれるインテリア空間デザインは、男女共に明るい自然光及び照明を好み、イスは背もたれ有ソファを好み、素材は木を好む傾向が示唆された。男女差が見られた点は、男子が白の光を女子がオレンジの光を好む点、インテリアスタイルは男子がモダンスタイルを女子がカントリースタイルを好む点であった。男子は暇つぶし等の多様な利用が見られ、店を選ぶ基準は雰囲気につき場所が重要であると示され、男子はカフェのインテリア空間に対して居心地以外に日常の活動の一部として合理性を求めると考えられた。一方、女子は友人とおしゃべりという目的が多く、店を選ぶ基準は雰囲気が多くを占め、カフェのインテリア空間に対して居心地と安らぎを求めると推察された。

引用文献

- 1) 高井尚之：カフェと日本人，株式会社講談社，pp3-5, pp23-47, (2014)
- 2) 安部ひとみ，大井尚行，森永智年：デザイナーズカフェのデザインプロセスと利用者ニーズの検証－福岡市中央区 カフェドアッシュについての考察－，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp71-72 (2011)
- 3) 青柳由佳，豊川尚，木村浩：つくば市北条の地域活性化事業「北条ふれあい館岩崎屋」について，日本展示学会第46号，pp52-53 (2008)
- 4) 小林茂雄，小口尚子：光色とBGMの種類がカフェでの会話行動に与える影響，日本建築学会環境系論文集，第599号，pp143-150 (2006.1)
- 5) 小林茂雄，小口尚子：カフェでの会話行動に及ぼす照度とBGM音量の影響，日本建築学会環境系論文集，第605号，pp119-125 (2006.7)
- 6) 小林茂雄，川守梨沙，萩原利衣子：カフェにおける色彩・素材の特徴と利用行動への影響，日本建築学会環境系論文集，第574号，pp7-13 (2003.12)
- 7) 小宮容一他：図解テキストインテリアデザイン，株式会社井上書院，pp44-50 (2012)
- 8) 牧野唯他：住まいのインテリアデザイン，株式会社朝倉書店，pp8-9 (2010)
- 9) 内田文雄，大片健太郎：都市空間における第三の居場所としての現代カフェに関する研究，山口大学工学部研究報告，Vol.60, No.2, pp19-23 (2010)

Abstract

We conducted a questionnaire survey on the frequency of use and the preferred interior design of the cafe to examine the differences between the male and female students.

Both male and female students used the cafe with two of friends and the purpose of conversation, and male students used the cafe for many purposes; for example, killing time. Regarding the time spent at the cafe, male students tended to stay for a shorter time than the female students. Female students tended to use a cafe much more often than the male

students.

Concerning the interior design, male students tended to like white light and modern style, while female students liked orange light and country style. Both male and female students liked natural lighting, wood material, chair with back, and a sofa.

The results suggested that male students wanted not only a comfortable space but also a rational space where they could perform activities, because white light is fit for activities and the modern style is rational. Female students wanted a comfortable space where they could find peace of mind, because orange light is fit for relaxation and country style is natural and leads to peace of mind.

